

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

# いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第 19 号

2014 年 1 月 6 日 発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団  
 編集：専務理事 佐藤 正 俊  
 住所：〒160-0023  
 東京都新宿区西新宿1-9-1  
 TEL:03-3349-6194  
 FAX:03-3345-6388  
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

## 欧州留学を目指す諸君へ



声楽家・東京藝術大学教授

## 多田 羅 迪 夫

(当財団音楽分野選考委員)

フランス語能力認定試験(Nivea4、イタリア語検定CJUS B2以上)に変わってきている事などがその例です。また、滞在許可証(ヴィザ)取得において、留学生が開設した銀行口座に一定額以上の預金残高があることを証明する義務が課せられる国(ロンドン)もあります。

これら一連の動きは、ヨーロッパの大学の国際競争力を高めるために、1999年にヨーロッパの29の国々がイタリアのボローニャに集まり、2010年までに国際的基準を統一した大学圏を作ることで合意した「ボローニャ・プロセス」といわれる会議とその宣言が発端となり、この合意に基づいて各国で着々と大学改革が進められ、現在もさらに新たな合意のもとに改革が進行中であることと無関係ではありません。参加した国々の大学は学修・学位の構造を共通にして、ヨーロッパ全体で学修プロセスを分かり易く互換性のあるものにする事を目指すというのですが、これは世界中の大学(ユニヴァーシティ)が世界共通の基準を持つた高等教育機関とするという流れになる事をも意味します。つまり

学士バッチェラー(基本4年間) 課程・修士マスター(基本2年間) 課程・博士ドクター(基本3年間) 課程という学修・学位制度も、世界的規模で共通の基準を持つものになる

流れです。音楽の分野でいえば、外国人留学生の為の1年や2年の短期学修制度を廃止し、1年のみの短期学修制度と外国人留学生のための修士課程(基本2年)に切り替えた大学(ウイーン)もあります。

ヨーロッパの伝統的な音楽と演劇に大きな役割を果たしてきたコンセルヴァトワール制(基本5年)は、この流れと別であっても変革期に入ったこととは否定できず、毎年のように学修制度が変更になるということが起こっている例(パリ他)もあります。

このように世界的に変革期にある海外の高等教育機関ではありますが、やはり海外留学によって学ぶことの大きな意義が変わるわけではありません。音楽芸術の先輩であるヨーロッパの大学等に身を置いて、その源にある文化そのものを体験することが重要なのです。そのためには、言語能力を高めておかなければ多くの事を学ぶ事が出来ません。そのことは海外留学経験者たちが口をそろえて述懐しています。その意味でも、受け入れ先大学が求める言語能力の高さはむしろ当然のことであり、留学生の為にも有益な事です。これから海外留学を希望する音楽学生そして、現在留学中の方たちの実り豊かな留学成果を期待しています。

海外留学を希望する人たちにとって、ヨーロッパの思わしくない政治・経済状況と連動するかのようには、EC諸国以外からの留学生(特にアジア系留学生)の受け入れにおいて、従来よりも厳しい条件を課されるケースが増えてきています。ドイツでは10年前までは無料だった授業料が有料化されたのは記憶に新しいところですが、日本に比べれば低額とはいえ、2013年から従来の倍の金額(年間1500ユーロ)になったオーストリアの例を見ても、ヨーロッパの大学授業料が値上げ傾向にある事がわかります。また事実上受け入れ教授の裁量で比較的緩やかであった年齢制限が、より厳しく運用される(あるいは上限が下げられる)ように変わったり、受け入れ大学の語学習熟度要求が、従来より高いレベル(英語TOEFL、BT80、ドイツ語基礎統一試験B2、

「海外音楽研修生費用助成」の

二〇一四年度申込受付を開始

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去23年間の助成対象者数は、合計159名です。

二〇一四年度は、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主に音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」をご覧いただき、4月11日（金）までにお申し込み下さい。

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 原則として音楽大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者
- ・ 声楽は一九八一年九月一日以降、器楽は一九八六年九月一日以降に生まれたる方。
- ・ 海外留学についての計画

- ・ と目標が明確である方
- ・ 二〇一四年から二〇一五年十二月末までに入学が可能な方
- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方

※ 既に海外に留学中の方も対象になります

3. 助成対象人員

- ・ 4名程度
- 4. 助成金額
- ・ 年額200万円
- ・ 助成期間は原則2年

申込手続書類等

1. 申込書

- ・ 所定用紙による。

2. 推薦書（2通）

- ・ 2名の方の推薦が必要。
- ・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名。

3. 録音資料および録音証明書

(1) 録音資料

- ・ 録音時間10分間程度の

オーディオCD（MDも可）を提出のこと。

- ・ 最近半年以内に録音された演奏であること。
- ・ 応募者本人の演奏が明確に聴き取れる録音状態であること。（同一楽器による二重奏等、個々の演奏者を識別しにくい録音は審査の対象外）

(2) 録音証明書

- ・ オーディオCD（またはMD）は録音した曲目の楽曲構造に依りて、ディスクに分割点をマーク（クリック）し経過時間を記入願います。
- ・ 応募者本人の演奏であることを、伴奏者（個人または団体）、演奏会主催者、録音スタジオや録音エンジニア等の録音に立会った関係者が書面により証明のこと。

- ・ 証明書には、次の項目を必ず記入のこと。①演奏者氏名、②録音日時、③録音場所、④曲目、⑤証明者の住所と電話番号、⑥証明書作成日、⑦証明者本人の署名。

日程

1. 申込期限
  - ・ 4月11日（金）必着（申込書類は簡易書留便による郵送を原則とします）

2. 選考日程

- ・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は4月下旬
- ・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月20日（火）
- 【開催地 東京・新宿】
- 3. 結果発表
  - ・ 6月上旬

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ  
[www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp](http://www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp) を参照下さい。

## 海外音楽研修生レポート

[Sacchetto vuole?]



(11年助成・声楽)  
小林 大祐  
(留学先・私立ミラノ音楽学校)

イタリアにきて始めに覚えたのが、この「袋はいりますか？」だったと思います。スーパ―や買い物をした際にレジで必ず聞かれるので嫌でも覚えてしまいます。そんなことを想いながらイタリア留学も早二年目、奨学生として最後の年になりました。イタリアは太陽の国、人々はみんな陽気で街中でワイン片手にカンツォーネを・・・歌う訳がありません(それに近いことはおきます)。

学校の演技の授業では、

イタリア人演出家の先生が担当されて、いかに言葉が大事かということ学びました。母国語であるからこそ出来る細かく繊細な表現は大変美しく、それを取捨するには外国人である僕たちにはかなりのハンデを背負っていると思います。語学の習得はその細かく繊細な表現をするためには絶対必須です。

ミラノであるコンサートに出演させていただいた際に、終演後にお客さんのあるイタリア人の女性にブラーヴォと声をかけられました。僕があまりうまく喋れず戸惑っているところを、ごめんなさい、歌のイタリア語が完璧だったからついでに話も出来ると思ったわ!と、イタリア語の発音を褒められたのは大変嬉しいですが、もつと語学を頑張らなきゃと思った一夜でした。

最近のイタリア人は親日家が大変多く、友人を介して知り合ったイタリア人の友だちはみんな初めから受

け入れてくれます。ある日は15人のイタリア人の「日本食を食べる会」に呼んでもらって、その中に一人でイタリア語のシャワーというかなイタリアガラの滝を浴びてご飯の味が薄く感じたというとてもいい経験です。

一年目の最後、夏にチンクエ・テツレと共に世界遺産に登録されているポルトヴェーネレという地でオペラに出演しました。真上に教会があり海に囲まれた野外会場だったり、開演が21時30分で三幕の途中で深夜0時の教会の鐘がなったり、日本では経験できないオペラの国イタリアならではの経験でした。

残りの留学も、イタリアが起こすミラクルを楽しみ、振り回され、頑張りたいと思います。

## 「舞台袖の悪夢」



(11年助成・声楽)  
門間 信樹  
(留学先・マネス音楽院)

私は舞台袖にいました。自分の出番を待っていたのです。舞台上ではソプラノ歌手がフランス歌曲を美しく歌い、聴衆はその美声に聴き惚れています。その時、私は気付きました。次に私が歌うドイツリート歌詞を一切覚えていないのです。はじめの一節すら。

私は焦り、心臓が張り裂けそうでした。このまま気分が悪いと言って逃げてしまおうか。

そうこう考えるうちにソプラノ歌手は舞台袖へと下がり、聴衆は私の登場を待っていました。

仕方ない、メロディは分かっているのだから、でたらめなドイツ語っぽい言葉で乗り切れば良い…。意を決して聴衆の前に出た瞬間、私はベツドの中で目を覚ましました。

あれはすべて夢だったのです。目を覚ましてみれば、歌詞を覚えていない状態で本番を迎えることなどあり得ません。私は胸をなでおろしました。

演奏家であれば誰しもが見るであろうこんな夢ですが、果たして「ただの夢」と片付けてしまっているものかと私は時おり自問します。少し先に迫った本番。十分に準備出来ているだろうか。納得できるところまで音楽と向き合えただろうか。

ニューヨークは冬になると冷たい風が肌を刺します。また移民の街とはいえ、日本で食べられる物がすぐに手に入る訳ではありません。もちろん言葉の問題も高くそびえる壁です。そういった色々な課題を言い訳にして、音楽と向き合うことを怠けてはいないか。学校で練習したいけど寒いから早く帰ろう、風邪引くといけないから練習をやめて温かいものを食べに行こう。そういう向き合い方で「一杯勉強した」と胸を張って言えるだろうか。「舞台袖の悪夢」は私に語りかけているのではないかと思いません。演奏家として「完璧」は一生ないかも知れないけれど、情熱には常に正直であれと。

「憧れの地で」



(11年助成・ピアノ)  
坂本 彩  
(留学先・ベルリン芸術大学)

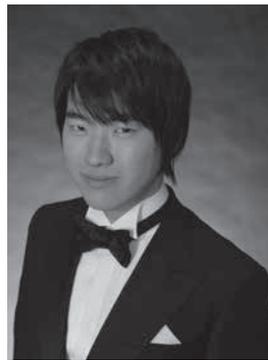
ヨーロッパで留学生生活を始めて2年が経ち、今年で三度目の冬を迎えました。ベルリンで勉強を始めて以来、自身の意見を求められる機会が多くあります。「このフォルテの意味は何?」「シュールベルトのニッって何を示していると思う?」このようにレッスンにおいても頻繁に質問をされ、当時はアイデアや知識の乏しさに加え、呪文のようなドイツ語しか話せなかったため答えられず「頭を使って楽譜を読んできなさい」と厳しく帰される毎日でした。そして周りを見渡せば音楽のこと哲学のこと何でも知っていきそうな外国人留学生がごろごろ：練習室待ちのベンチで日々白熱する論議を横目に、当時は自分の無力さに心底落ち込んだも

のです。これが、私が留学して初めて受けたカルチャーショックでした。しかし、その状況から抜け出したい、ステツプアップするにはどうしたらいいのかが苦しいんだ末、辿り着いた答えはごく単純なことでした。

私の先生はよく「わかるまで返事をしてはいけない」と言われます。いつの頃からかその言葉に少し甘えて、今まで「なんとなく」の理解で済ましてきた部分を勇気を出して質問するよう試みると、答えのみならずその答えに関連する知識・面白いエピソードが思いがけず次々とこぼれてくるのです。未知の世界がどんどんと拓けていく新しい感触でした。常に自分を受け入れ自然体でいることは一見簡単なようで難しいことですが、とても大切なことだと思います。

出す音楽空間は私にとってまさに憧れの世界。素晴らしい環境で勉強出来る機会をいただいたことに感謝し、引き続きその憧れを実現できる日を夢みて精進していきたいと思えます。

「客観性を持ちながら」



(11年度助成・ピアノ)  
永井 基慎  
(留学先・パリ国立高等音楽院)

藝大入学直後にパリに渡ってから2年が経ちました。クラシック音楽が溢れる欧州の地で学ぶことができ大変嬉しく思っていると同時に、この経験を後の自分の糧にして学んでいかなくてはいけないと感じています。

の、やはりそれまでの貯蓄では明らかに不足で、入学当初は苦労することが多々ありました。フランス人と積極的にコミュニケーションを取り、彼らの言い回しや発音を真似することが上達に繋がると思い、実行に移そうとしましたがこれも容易ではなく、未だに言語面で自由とは言いい切れないと感じます。

以前からフランスの持つ文化や仏語が好きであったことから、フランスに行きたいという思いがあり留学先としてまずパリを選んだのですが、実際に現地生活していくにつれ、様々な事が見えてきたように思います。日本で一般的なことが西洋では普通ではないことから来るストレス等はもちろんですが、個人主義のフランスならではの人の距離感等の違いから、フランス人が奏するドイツ音楽の響き等のフランス人と直接論議するには若干センチティブな事柄に至るまで、様々な事を知る濃い2年間であったと感じます。そんなこの2年間で常に思い浮かべる言葉に、日本の師匠がおっしゃった「日本人としての客観性」という言葉がありました。これは、西洋人になろうとするのではな

く、常に日本人としての客観的な視点を大切に学べという意味合いなのですが、この言葉をこちらで学んでいくうちに徐々に理解できてきたように思うと同時に、これこそが留学する上で大切な視点ではないのかなと感じるようになりました。

今後も西洋音楽を学び、この偉大な芸術を継承していくこうとして身として、様々なことを吸収し、留学期間が有意義な時となるよう精進して参りたいと思っております。

「スリにご注意!」



(11年助成・ヴァイオリン)  
正戸 里佳  
(留学先・パリ国立高等音楽院)

今考えても残念なのですが、私は5年間で三回携帯電話を盗られたのです! しかも最初の二回はカフェで、学校の友人達とお茶を飲んでいる時に、テ

ブルの上に置いていた携帯電話を目の前で簡単に持って行かれてしまったのです：  
 バイオリンケースを足の間に挟んでいるアジア人、あるいは留学生とはつきりわかる人。どうもそのような人がねらわれるようです。何故かつて？  
 それはまず、楽器を置きっぱなしにして追っかけてこないという事を彼らにはよく分かっているからでしょう。携帯をやすやす目の前で盗られてそれでも追っかけて行って取り戻せない悔しさときたら！私の携帯を持って、犯人が悠々と立ち去るのを見送ることしかできないのです。  
 三回目はずっと悲惨でした。二度と盗られないと充分に注意していた私ですが、まさか電話している最中に、手からもぎ取られるとは思っていませんでした！確かにパリ国立高等音楽院の周辺は生徒を狙ったスリ事件が多いのは事実なのですが、日本では到底考えもつかない事が起こるのです。手から携帯をもぎ取られた私は、あらん限りの大声で泥棒!!と叫びました。犯人は地下鉄の駅に逃げ込みましたが、警察の方が追っかけて下さいました。あぁ！

よかつた！と思ったのも束の間、犯人は地下鉄の線路に降りて反対側のホームから地上にあがり、まんまと逃げてしまったのです！  
 どうか皆さん、中でも弦楽器ケースを持ち歩く方々スリにご注意を！何しろ楽器を置いて追っかける事ができないのですから。



©Jeff Fasano

『I will Rock you ★!!!!』

(13年助成・フルート)  
 新村 理々愛  
 (留学先・コルバースクール)

アメリカ留学も1年半が経ちましたが、毎日やるべきことがてんこ盛りで、本当に24時間では収まらないといった慌ただしく充実した日々を過ごしています。  
 今年の春まで現地の公立高校に通いながら音大のアカデミーにも在籍していた頃は、夕方まで学校の授業、寮に戻ると直ぐにアカデミーの授業を受け、その後

練習、、、さらに高校の定期試験やGEDの準備など、それはそれはめまぐるしいものでした。9月からは大学の授業だけになりましたが、それでもフルートの練習の他に日課であるヴォーカル、ダンス、ピアノ、ギター、ドラム、トレーニング。週末には大学でのタッグダンスレッスン、コンピュータのレッスン、、、やれることは何でも吸収し、幅広い視野のもとでグローバルな音楽を創造出来るそんな環境で、今この時・このチャンスを大事に生きています。  
 やるべきことが山盛りあり、刺激のある大学生活が送られて本当に幸せだなぁって思います。一瞬たりとも無駄にしたくはありません。昨年からは多くの場所でも多くのコンサートを見せていただいております。様々な個性を持った伴奏者との掛け合いはそれなりに勉強になります。とにかく本番がなにより学びの場であると同時に、拍手喝采が私にとって最高のエネルギー源です。  
 嬉しいことに全米生放送のTVで演奏したり踊ったり、その後街で声を掛けられたり：おまけに街でドッキリインタビューを受けて

放送されたのを知らずに、知人から連絡を受けてはまたびっくり！！つなんで、アメリカならではの面白いハプニングがあったりで愉快な日常です。何となくいつても現地生まれの友人を多く持てたことは最高の財産です。またと無い経験を一杯楽しんでいきます。

しかし、留学は楽しいことばかりでは勿論有りません。思いがけないトラブル、ハプニングはそれこそ付き物です。そんな時に冷静になれるかの肝試しみたいなもんですね！すつかり肝が据まりました(笑...)。  
 今年2月は、大学の定期演奏会のソリストなので気合十分です！これまで同様にコンサートの予定が組まれているので、一回一回をMaxの状態に挑む覚悟です。とにかく与えられたチャンスを腰を据えてじっくり体感したいと思っています。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者 (作曲部門)

日本音楽コンクールの作曲部門は、現在活躍中の作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう財団発足の91年度から同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」(賞金50万円)を寄託し、これまでに次の方々を受賞されています。

91年度 (第60回)	山岡 智
92年度 (第61回)	伊佐 治直
93年度 (第62回)	藤満 健
94年度 (第63回)	原田 敬子
95年度 (第64回)	伊佐治 直
96年度 (第65回)	望月 京
97年度 (第66回)	若林 千春
98年度 (第67回)	なかにし あかね
99年度 (第68回)	大場 陽子
00年度 (第69回)	三浦 則子
01年度 (第70回)	小野 貴史
02年度 (第71回)	名倉 明子
03年度 (第72回)	朴 銀荷
04年度 (第73回)	中村 寛
05年度 (第74回)	宮沢 一人
06年度 (第75回)	横島 浩
07年度 (第76回)	篠田 昌伸
08年度 (第77回)	山根明季子
09年度 (第78回)	稲森安太己
10年度 (第79回)	江原 修
11年度 (第80回)	中辻小百合
12年度 (第81回)	三宅 悠太
13年度 (第82回)	魚路 恭子
	平川 加恵
	網守 将平



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

松井 久子 (ハープ)

日本フィルハーモニー交響楽団に在籍して今年で22年目に入り、ますます音楽の持つ力、奥深さを感じながら、こうして演奏活動が出来る喜びを日々感じております。同時に、後進の指導に当たりながら生徒たちの成長が楽しみでもあり、また、教えるという事によって自分自身の音楽を改めて振り返る毎日でもあります。

鈴木 優子 (パーカッション・メーアブツシユ在)

昨年は、6月から夏休みをはさんで約4ヶ月半、演劇作品「Die Rasenden」の

リハーサルに取り組んできました。11月半ばのハンブルク市立劇場のリニューアルと新館長就任のオープニング公演となる予定でしたが、あいにく工事中に事故が起こり、初演が来年1月に延期されました。ギリシャ悲劇を中心に5作連続上演のため、公演時間は約8時間です。長時間でも惹きつける作品にする一助になるよう、音一つひとつに表情が出るよう工夫して演奏したいと思っています。

1992年度助成

田中 晶子 (ヴァイオリン・ミュンヘン在)

マキシム・ヴェンゲーロフとバツハの「二つのための協奏曲」「ナヴァラ」ほかで共演(ポーランド室内管弦楽団)。

梅津 千恵子 (打楽器)

その他にも、東京でのリサイタル、日本センチュリー交響楽団とチャイコフスキーの協奏曲などの予定。

11年間のイタリアでの演奏活動を終えて、一昨年末に帰国しました。日本の情勢もこの間に様変わりし、まるで何も持たない赤子のように不安な思

いを持ちました。国内オーケ12年、イタリアオーケ9年、ソロ室内楽企画演奏、これらのキャリアを活かせる仕事を現在探しています。「Ensemble Marinivace (マリンバ五重奏)」を立ち上げ、ティンパニ委嘱作品「南無」(藤家漢子作曲)の初演、イタリアでのデュオ活動の相方を招聘し、これら三部構成の打楽器コンサートを1月6日にすみだトリフォニーで自主企画演奏予定です。

1993年度助成

横田 みぎわ (声楽)

台湾での任期を終え、帰国。3年ぶりの日本です。帰国当初は外国にいるようで、毎日緊張の連続でした。

台湾で経験した合唱指導の楽しさから、こちらで合唱団をつくりたいと考えておりました。しかし、その矢先、自分の健康が損なわれていることがわかりました。ただ今、元氣を取り戻すために、充電中です。

1994年度助成

樋口 あゆ子 (ピアノ)

昨年は通常のコンサート

活動が年間50回、(毎週土曜18時45分)横浜ピアノワイナリー響きのクラシックの音楽番組司会、そして、日越外交樹立40周年記念・第一回日本ベトナムピアノフェスティバル実行委員長・総音楽監督として、日本とベトナムで7か所で、日越の若手ピアニストの育成と国際友好交流ピアノフェスティバルを開催させていただきました。

本フェスは日本ベトナムの政府イベントの位置付けとして、ベトナム大使、日本の与野党の衆議院議員の先生方に理事でお世話になりました。政官民の皆様とともに無事に終了させていただきました。お世話になりました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。次回第二回は、2015年秋を予定しております。

今年、さらなる活動を通して、通常の音楽活動に加え、世界の若手音楽家の育成にも、微力ながらも貢献させていただけましたら幸いです。

HP><http://homepage2.nifty.com/ayuko/>

松岡 みやび (ハープ)

昨年は、NHK・FMラジオ「きらクラ！」やTBS

ラジオ「大沢悠里のゆうゆうワイド」などラジオ出演が多く、そのたびにAmazonでCDや著書の売り上げが一位になるなど、ハープの癒しの音色が社会に求められていることを実感しました。松岡みやびハープ教室にも、これまで楽器に興味のなかった人たちが(2歳から80歳まで!)が多く入会してきてくれるようになり、スタッフも5人に増えました。

今年は、音楽之友社より私のオリジナル流派「ミヤビ・メソッド」のハープ教本とDVDが発売されるほか、新しいCDのリリースも予定しています。ハープの魅力を楽しく伝えていきます。

神田 寛明 (フルート)

自分では未だ未熟者、ペーペーの若造だと思っておりましたが、気がついたらN響在职20年!先日、永年勤続表彰を受けてしまいました。この世界に飛び込んだ頃の恩師の方々、新入社員だった頃の先輩方の年齢に自分が近づき、あるいは達して(越えて)しまったことに対し、感慨よりも先に「役不足」という言葉が頭をよぎります。

昨年のご指導いただいた先輩方の訃報に多く接しました。さらに自分をイジメて精進する所存であります。(NHK交響楽団首席フルート奏者 アジア・フルート連盟常任理事)

1995年度助成

大森 潤子

(ヴァイオリン)

札幌での生活も、8年目に入りました。私は相変わらず、札幌で演奏しつつ、リサイタル、北星学園大学チャペルでのおバツハ無伴奏などのソロ活動、キタラホールでのカルテットや管弦楽九重奏などの室内楽、小学校を主としたアウトリーチと、充実した活動をさせていただいております。今年、オケのほか近々の予定としては、2月にキタラでカルテット公演、3月にチェロとのデュオリサイタルを行います。

志茂 美都世

(ヴァイオリン・イギリス在)

毎年この原稿を書く頃になると、助成金をいただくにプラハに留学した当時のことを思い出します。故ヨセフ・スークを育て、またオイストラフの親友でもあったチェコ人の名教師、

故ホロニョバ女史の居場所を探したいと切望し、一人で彼女を頼ったこともありましたが、懐かしいです。さてお知らせです。

「2014年都民芸術フェスティバル」オーケストラ・シリーズに出演、読売日本交響楽団で、公演日2月4日(火)、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲(ホ短調)を演奏します。

玉井 菜採

(ヴァイオリン)

昨年2月に女兒を出産しました。演奏活動、藝大の教職にも復帰し忙しさを増しておりますが、充実した活動を続けていければ、と思っております。

石橋 幸子

(ヴァイオリン・スイス在)

昨年に、姉の直子(名古屋フィル・首席ヴィオラ奏者)と一緒に、弦楽三重奏のコンサートを名古屋、京都、大阪で開催いたしました。やはり姉妹での共演は新鮮でとても息が合います。それはそれは楽しい経験でした。現在、来年(2015年)に姉妹でのデュオコンサートの企画を進行中ですので、お時間のある時に下記の私のホームページをご覧ください。できれば幸いです。

また、弦楽三重奏グループ、トリオ・オレアーデの活動も充実した一年となりました。今年、フランスでのツアーを初めとして、トーンハレで毎年行われる「弦楽室内楽シリーズ」のコンサート出演も決まり、より大胆かつ緻密なアンサンブルを目指していきたいと思っております。

所属先のトーンハレ・

チューリヒ交響楽団では、今年4月にクレイメル氏をソリストに迎えて、日本ツアーを行います。今シーズンが最後の指揮となるジンマン氏の指揮も楽しみです。また、皆様にお会いできずのを楽しみにしています！

HP: [www.yukikoishashi.com](http://www.yukikoishashi.com)

1996年度助成

磯 絵里子

(ヴァイオリン)

昨年は正式メンバーとなって初の鎌倉ゾリスステンド、ヴィヴァルディの四季から「春」のソロで年が明けました。また、神奈川フィルハーモニーとの共演や明治安田生命のチャリティコンサートでの室内楽など、充実の一年でした。今年もソリストとして、

またアンサンブルの(ファイ)やデュオ・プリマの一人として、全国各地でコンサート活動が控えています。子供のためのコンサートや被災地を訪れる活動、学校訪問コンサートなど、地域創造のアーティストとしてのアウトリーチ活動でも沢山の経験ができています。音楽で人と人が触れ合い心を通わせることを日々学んでいます。

現在、洗足学園音楽大学と東京音楽大学に所属し、学生の指導や演奏にあたりています。自分の若き修行中のことを重ね合わせています。

1997年度助成

泉 良平

http://yaplog.jp/iso-diary/eriko

現在留学している、あるいは今後の留学を控えている皆様、音楽によってできること・・・楽しくも試練ある人生に、潤いや喜びを与え、時には一緒に泣き笑い、そんな素晴らしい使命を持つていることを念頭に置いて勉強に励んでください。今しかできない経験があるたの未来を作ります。どうぞ頑張ってください！

私の演奏会や活動は、下記のHPまたはブログで新着スケジュールを公開しております！

http://www.34-net.com/

1999年度助成

田邊 織恵

(声楽)

昨年4月より、国立大学法人京都教育大学音楽科の専任教員(准教授)として勤務しております。教育大学という新しい環境にまだ慣れない部分も多いですが、

2000年度助成

諸田 広美 (声楽)

音楽の先生を目指す学生たちに、自分の学んできた様々なことを精一杯伝えたいと思っています。  
また、演奏家としても、新しい分野にチャレンジし、益々頑張りたいと思います！

大谷 玲子 (ヴァイオリン)

昨年9月にモスクワで開催された第五回ダヴィッド・オイストラフ国際ヴァイオリンコンクールに、審査委員長で恩師のイーゴリ・オイストラフ先生が、教え子として初めて審査員として招聘して下さいました。世界的ベテラン審査員たちとの交流も有意義なもので、審査員によるマスタークラスでも教えました。ジュニア・シニア部門併せて29か国125人の参加申込者があり、ハイレベルで才能豊かな演奏に多く出会えました。私の生徒もジュニア部門第2位入賞、次世代が育つのは本当に楽しみです。

Hd: <http://reiko0tami.com>

上野 真理 (ヴァイオリン)

昨年はロサンゼルスでの初日の出から始まりました。お正月にLADAIKUと共演で「第九」ソリストを務めたほか、日本歌曲を披露してきました。初めてのアメリカでしたが、昔の教科書にあった「人種の坩堝」を実感し、一外国人である自分も、それを意識することなく過ごすことができるという好感を抱きました。または是非訪れたいと思います。  
昨年は2年に1度のリサイタルの年で、11月に、地元・群馬と東京で行いました。東京は初めて新宿明治安田生命ホールを使わせていただきました。海外音楽研修生の二次試験以来の演奏で、懐かしかったです。  
今年のまず大きな公演は、3月15日の「アイーダ」アムネリス役です。全曲歌うことが夢だった役なので、大変嬉しいです。

昨年春に、ルネ小平でヴァイオリン名曲集々に出演させていただき、留学から今までを振り返る原点となりました。

無我夢中で過ごした時期、もがいていた時期、何かを掴めたように感じた時期、どの時も、やっぱり集中して勉強させていただけの環境にあったからこそだと感謝の気持ちでいっぱいです。  
今はちょうどウイーンからソリストが来日され、オーケストラのコンミスとして一緒にさせていただいております。モーツァルトの音を聞きながら、やはりウイーンだな、と感慨深いです。

神谷 未穂 (ヴァイオリン)

毎年、この「いい人・いい音」で海外、国内でご活躍の皆様の新況を読ませていただくのが、新年の楽しみとなっております。  
私の近況は、昨年6月半ばに長男が誕生しました。9月の仙台ファイル復帰は、故三善晃氏のヴァイオリン協奏曲のソリストでしたので、初めての育児と練習で、あつという間に産休終了となりました。働くママを応援してくれる仙台ファイルの仲間、共演者、家族、ベビィシッターさんのおかげで、今年も色々なところで演奏させていただく予定です。  
近々ですと、1月15日名古屋・宗次ホールで高橋多

佳子さん&エマニュエル・ジラルド(主人)とのピアノトリオで、18日京都コンサートホールで阪神淡路大震災十九周年祈念みやこフィルチャリティコンサート、19日三鷹市芸術文化センターで毎年恒例のニューイヤール・ファミリーコンサート、23日大阪・宝くじドリム館コンサート、26日深川市文化交流ホールで演奏します！  
2月14日には日立システムズホール仙台で井野邊大輔さんと、23日宮城県えずこホールで徳永二男先生、3月9日には日立システムホール仙台で諏訪内晶子さん、という超豪華共演者との初デュオが！！  
従姉・儀絵里子とのデュオプリマも元気に活動を続けています。どこかで皆様にお会い出来るのを楽しみにしています。

シュレイファー 弓子 (ハーブ・ガラス在)

私事となりますが昨年6月に長男を出産いたしました。ハーブという楽器の演奏上、妊娠中の体への負担を心配しましたが、特に大きな問題もなく出産3週間前まで演奏を続けることが出来、ほっとしました。出産後も不安ばかりが募り、海

外におりますため親族の手も借りられず、仕事と育児をどう両立するかが大きな課題でしたが、まさに「案ずるより産むが易し」で、ナニーさんをお願いしたり、周りの諸先輩方の助言を受けたりし、順調なスタートを切ることが出来ました。  
そのような訳で今年は演奏は控えめモードですが、いくつものコンチェルトと室内楽のコンサートがガラスにてあります。生徒たちの成長もとても楽しみなの頃です。

藤井 香織 (フルート・ニューヨーク在)

皆さんこんにちは。このお便りを書いている11月、こちらニューヨークは、今年初の雪も降り、すっかり手袋と帽子が欠かせない季節になりました。毎日たくさんさんの生徒さんをお教えしたり、コンサートをさせていたただきながら忙しくも楽しく生活しています。  
11月末には数週間日本に帰国してレコーディング。8枚目となるCDはピアノの姉、裕子とのデュオで、今からわくわくドキドキです！この機関誌がお手元に届くころにはきっと、編集に追われていることでしょう。発売は今年春ごろ

の予定。お楽しみいただけようにながらばります。それでは、2014年が皆さまにとって幸せいっばいの一年になりますように☆

2002年度助成

橋野 沙綾

(ピアノ・ジュネーブ在)

2013年は色々な意味で私にとって節目となった年であり、新生・再生の年でもあったと思います。ジュネーブに来て12年目も半ばとなりましたが、母校である東京藝大とジュネーブ音大の両母校の交流演奏が実現することとなり、二つの大切な学校の間に立つて橋渡しできたことは、今後の音楽家を育てていくためにも大変重要だったと思います。

個人の活動としては、スイスでオーケストラとの共演や室内楽、ソロ、また日本での演奏も視野に入れて、2014年も幅広く活動していく予定です。

2005年度助成

臼木 あい

(声楽)

昨年は私にとって、出産という人生最大の経験をしました。赤ん坊を抱えなが

ら演奏していくというのは、自身の体の変化を含め、想像以上の大変さがあります。何とか頑張っており、11月には日生劇場で、ライマンの「リア」という現代オペラにコーデイリア役で出演させていただきました。この時も娘が熱を出したり、ウィルスに感染したりと、新米ママにさらなる試練を与えてくれました。今年も東京藝大の博士後期課程を修了し、以前行ったバロックオペラを狂言のスタイルで演じるというプロジェクトをヨーロッパ各地で行います。

佐野 隆哉

(ピアノ)

東京藝術大学、国立音楽大学での指導も3年目に入り、やっと演奏活動との両立が出来つつあります。昨年9月には、自身初のファーストアルバム「DNA NZA」をリリース、地元・青梅でのリサイタルも無事に終えることが出来ました。

次の目標は、今年3月12日の東京文化会館でのリサイタルです。中央での実質的なデビューリサイタルとなり、今からとても気合が入っております。

遠藤 真理

(チェロ)

NHK・FMにて「きらクラ！」というラジオ番組のMCという役も2年目を迎えました。ラジオを通して、より身近にクラシックを感じていただけるように頑張っております。

コンサート活動では昨年12月に山形交響楽団とマルティヌーの協奏曲を共演させていただき、普段聴く機会の多くない曲ですが良い機会になりました。

2006年度助成

佐藤 卓史

(ピアノ)

ハノーファー、ウィーンでの7年の研修を終えて、昨夏帰国しました。10月には全国16都市でオール・ベートーヴェン・プログラムによるリサイタルツアーを開催、研鑽の成果を各地の音楽ファンの皆様にお聴きいただくとともに、私自身にとってもレパートリーをさらに深めていく貴重な機会となりました。今春から開始する「シューベルト ピアノ曲全曲演奏会」をはじめ、これから日本を拠点に充実した演奏活動を行っていききたいと考えております。

HP: www.takashisato.jp

鈴木 真貴子

(ピアノ)

昨年は、私の研究する作曲家プーランクの没後50年によせて様々な演奏会を催させていただき、雑誌に寄稿する機会にも恵まれました。改めてこの作曲家の魅力を認識し、今後もライフワークとして取り組む決意を新たにしております。

今年も引き続き、後進の指導や演奏会を通して音楽の持つ喜びを沢山の方々と共有できたら...と思っております。

朝吹 園子

(ヴァイオラ・バーゼル在)

ヨーロッパに来てはや7年。異文化交流、バロック音楽との出会い、学んだこと、感じたもの、得たものは計り知れないほど大きいものでした。今も留まることなく発見の多い日々です。

西洋音楽の中心部を成してきたキリスト教、そして教会の存在の大きさ、そこからの音楽のあり方を身をもって学んだことはかけがいのないものです。また、それを演奏家としてどのようにな形で伝えていくか、どうい

2007年度助成

中村 恵里

(声楽・ミュンヘン在)

昨年は所属しているバイエルン州立劇場での出演の他、ロンドンでの再出演、パリ、サンティアゴでのデビューなど慌ただしく過ごして参りました。

国内でも、N響の第九、ニューイヤークンサートなど貴重な機会をいただいております。

今年はワシントンオペラ、バルセロナでのコンサート、ロイヤルオペラでの再度の出演を予定しております。バイエルンでも引き続き出演いたします。

どこで歌っていても、心ある音楽を目指し人々と繋がっていく喜びを表現できるように努めて参ります。

平野 朝水  
(チェロ・バリ在)

フランスでの生活も気がついてみれば6年になり、様々なオーケストラやフェスティバル等でお仕事をいただく機会も増えました。特に最近では、リヨン国立歌劇場に副首席として頻繁に招聘していただいております。素晴らしい指揮者や歌手の方たちと一緒にオペラに携わることができ、とても充実した時間を送っています。

2008年度助成

クリスティン・木実・  
ウィットマー

オランダでの留学が始まってから早くも5年目、現在はデン・ハーグ王立音楽院のマスター課程でH.パーセルの劇音楽に関する研究と歌の学びを続けています。

今年12月には、メサイアとクリスマスオラトリオのソリストとして招かれ、東京と大阪で演奏する予定です。このような形で日本に赴けることになり、とても嬉しいです。

塚越 慎子  
(マリンバ)

昨年はソロリサイタル、

オーケストラとの共演、新作初演、様々な編成でのアンサンブル活動、アウトリーチ活動など、非常に多彩な内容のコンサートの機会に恵まれ、そのひとつひとつがすべて、演奏できる喜びを感じさせてくれるかけがいのないコンサートとなりました。

12月には2nd CD「Passion」を発売し、今年2月16日(日)14時より、紀尾井ホールにてソロリサイタルを行います。今後も、マリッパの魅力を多くの方にお届けできるように、演奏活動に励んでまいります。

2009年度助成

盛田 麻央  
(声楽)

帰国して2年、昨年度は日本でフランスオペラに関わりたいたいという目標が少し果たされ、マスネ「ウエルテル」ゾフィー役、トマ「ハムレット」オフィーリア役を演じることができ、留学の経験が活かされたことを嬉しく思います。

今年度は、フランスの教会で学んだ響きを感じながら、宗教音楽にも取り組んでいけたらと思っております。

重島 清香  
(声楽・ワイマール在)

ワイマール劇場専属歌手として2シーズン目となりました。現在は、チャイコフスキーの「エフゲニー・オネーギン」(オルガ役)の稽古中です。稽古ではうまくいかず葛藤しながらも、納得いくものを作り上げることが今の目標です。

この他には「ウエルテル」のシャルロット、「蝶々夫人」のスズキ、「ファルス・タッフ」のクイックリー、「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼルに出演します。

松本 伸章  
(ピアノ)

帰国して早いもので次の4月で丸3年になります。今年はお陰様で忙しく、充実した一年となりました。中でも、宮崎県立芸術劇場のアイザックスタインホールで開催された出身高校の30周年記念式典に呼んでいただき、30歳になった自分とその場所でのリサイタルをやらせていただけたことは、不思議な縁を感じる最高の時間でした。

ピアノを通じた人との出会いや縁に、大きな幸せを噛み締める毎日です。

金子 平  
(クラリネット)

読響に入って10ヶ月が経ち、だんだん自分のやりた音楽が、オーケストラや室内楽でも自然と内から出てくるようになりました。

今思えばあつという間の留学生活でしたが、先生の言葉や、ドイツの空気、さらには学友との楽しい思い出が今の僕の音楽の糧になっています。

2010年度助成

高橋 さやか  
(声楽・マルセイユ在)

昨年の9月から、3年間住んでいたパリを離れ、マルセイユ国立オペラ研修所で勉強を始めました。また、昨年は、メドック国際声楽コンクールで第一位をいただくこともでき、フランス留学3年目にしてようやく少し結果を出すことができたとかなと思っています。

日本での演奏活動も続けながらの研修所での活動は、体力的には大変ですが、それぞれの場で得たことを消化し、自分なりに組み合わせながら、良い相乗効果を生み出すことができると思っています。

小林 美樹  
(ヴァイオリン・ウイーン在)

おかげ様でウイーン留学生活も折り返し点を過ぎ、今年もいくつかの演奏会の機会をいただいております。中でも、3月の地元・神奈川フィルとのモーツァルト「第5番」と、5月のみなどみらいホールでの新日本フィル、コロンゴルトのコンチェルトはどちらも生まれ育った神奈川県での演奏会なので、本当に楽しみにしております。お近くの方は是非お越しくださいませ。

2012年度助成

竹下 裕美  
(声楽・ウイーン在)

留学して以来、日本では想像すらかないことばかりのため激やせするかと思いきや、左側の桁が増えていました。

先日、オペラ座の角でブラシド・ドミンゴ氏と遭遇し、そのまま彼の指揮する「蝶々夫人」を観て号泣。こんな素晴らしい環境下で勉強させていただけられるのも、ご支援あつての事だと心から感謝の気持ちで一杯です。

増田 桃香

（ピアノ・サンクトペテルブルク在）  
早いもので留学生生活も2年目に入りました。留学を始めてから、音楽の捉え方や自分の演奏スタイルも少しずつ変わってきたように思います。練習時間が多く確保でき、自分の専門に集中できるありがたい日々を送ると同時に、徹底的に事故と向き合う時間も増え、自身の演奏家としてのレベルに思い悩むことも少なくありませんでした。もちろん、ロシアの長く暗い冬の気候のせいもありますが。そんな生活に慣れてきた昨年5月に、ルーマニアのブカレストで行われた「Jeuneses International Music Competition Dinu Lipatti」というコンクールに参加し、第一位をいただくことができました。

（ヴァイオリン・ウイーン在）  
11月半ばになり、ウイーンはクリスマス市の小屋が

松本 絢佳

建ち始め、ケルトナードりにも美しいイルミネーションの飾りが取り付けられました。この1年で自分の中で何が変わってきていることを感じます。様々なことに対して積極的になってきました。

週末は練習の合間に、ウイーンの緑豊かな美しい街を散歩しています。現地の人との交流の中で、コミュニケーション能力も高めていきたいと思っています。最近は大塚さんご夫妻からドイツ語を教えてくださいました。沢山のことを自分自身の栄養に取り入れながら、成長していきたいと思っています。

上村 文乃

（チェロ・ハンブルク在）  
ハンブルクに来て約2ヶ月が経ちました。渡独直後に参加した「メンデルスゾーンアカデミー」では、コンチエルトオーデイションに挑戦し最後の一人に残ることが出来、最終日のコンチエルトを演奏しました。

学校が始まってからは、語学学校と大学の授業、そして練習と24時間を今までにうまく有効に使っている気が

2013年度助成

谷垣 千沙

（声楽・ライプツィヒ在）  
渡独して早7か月が過ぎ、今は音大入学の準備をしています。こちらに居られる先輩方のお話を沢山聞きました。留学には一つとして同じ手段はなく、百人いれば百通りの留学の仕方があるのだと痛感しています。どれもがイレギュラーなのです。ドイツで出会い、沢山のことで助けて下さった方は皆、留学するにあたってとても苦労なさっています。だからこそ、自分が落ち着いて勉強できるようになるとき、頂いたその優しさを次の人に渡すことができたら、と思っています。

加藤 のぞみ

（声楽・パルマ在）  
イタリア・パルマでの生活も2ヶ月が過ぎました。昨年10月にパルマ音楽院に入学してすぐに、音楽院主催のヴェルディ「ファルス

タッフ」のクイックリー役で出演させていただきました。子どもたちのためのハイライト公演でしたが、衣装もヘアメイクもあり。キャストも演出家もイタリア人、何と言ってもパルマ王立歌劇場の舞台で歌うことが出来たのは本当に素晴らしい経験となりました。

佐藤 彦大

（ヴァイオリン）  
2012年からベルリン芸術大学で研鑽を積み、暮らしの中で言葉に出来ない

パルマは美食の街。何を食べても本当に美味しいです。休日には美術館や街の教会を巡ったり、パルマ近郊の街でコンサートに出演したりと本当に充実した毎日を過ごしていますが、今、一番苦労していることといえばやはり語学です。日本では準備はしてききましたが、イタリア人の話すイタリア語はとて早く、音楽院の授業、声楽のレッスンは思った以上に苦戦しています。そのため、音楽院のイタリア語の授業の他に週2回、イタリア語学校に通い始めることにしました。

藤井 淳子

（チェロ）  
今年7月にヨーロッパにて新たなスタートを切りました。より早く今の環境に慣れるためにも音楽の勉強と同時に、ドイツ語教室に通い始めました。

来学期にはドイツで行われる弦楽コンクールへの出場を予定しています。また、講習会等があれば進んで参加し、様々な教授らの意見を取り入れながら演奏に活かせるよう日々練習を重ねています。

「結婚手形」にクラリーナ役で出演する予定です。

